

イベリス ホワイトアウト

学名: *I. sempervirens*

種子粒数の目安: 340 から 450 粒/グラム

重要な開花要因:

- 宿根時の USDA 耐寒指標: 3 から 9(最低温度 -40°C)
- 日長時間との反応: 原則関与しない(ニュートラル)
- バーナリゼーション: 5°Cの条件で、最短でも 8 から 10 週低温処理が必要

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい培地を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75mmhos/cm)とする。

播種

288 穴トレイに 3 から 4 粒播きする。パーミキュライトで軽く覆土する。

ステージ 1 - 播種には 4 から 7 日を要する

地温: 18 から 20°C

光条件: 不要である

水分: ステージ1では水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95 から 97%で維持する

ステージ 2

地温: 16 から 18°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルを下げ、適度な湿潤(level 4)から標準(level 3)にして、根の生長を培地中で促す

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 16 から 18°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 標準(level 3)から適度な湿潤(level 4)の範囲で循環的に繰り返しながら管理する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる

PGR(矮化剤): 矮化剤は不要である

ステージ 4

温度: 16 から 18°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10cm 前後: 1 株移植/ポット

15 から 18cm: 1, 2 株移植/ポット

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また EC は 1.2 から 1.4mmhos/cm)の範囲とする。

バーナリゼーション

2 から 5°Cの条件で、最短でも 8 から 10 週低温処理が必要である。低温処理の開始に先立って、8 から 10 週の間で株を積んでまとめておく。

温度(最適温度)

昼間温度: 16 から 22°C

夜間温度: 5 から 10°C

光条件(照度)

適正な温度域で管理されている限り、できるだけ高く維持する。

日長時間との関係

ホワイトアウトはデイ・ニュートラルな品種である。

かん水

移植後、いわゆるバルキングステージあたる、はじめの 4 から 6 週は適度な湿潤(level 4、培地の色調は黒褐色)を維持する。その後の水分レベルは、適度な乾燥と標準(level 2 から level 3)の範囲とする。

肥料

ホワイトアウトは概ね平均的な肥料供給を必要とする品種である。レート 3(175-225ppm(N)、EC は1.2-1.5mS/cm)の肥料を適宜与える。

PGR(矮化剤)

矮化剤は概ね不要である。

ピンチ

枝が堅いのでピンチは不要である。

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 7 から 8 週

移植から出荷まで: 26 から 36 週

播種から開花まで: 33 から 44 週

標準的な作型:

5 月から 8 月中旬までに播種すると、翌年の 3 月から 5 月に自然開花する

病例等

害虫: ハダニやナメクジなどに注意

病気: ボトリティスやべト病などに注意

※ ベト病にかかると頻繁に葉が枯れて落葉するので注意する

花壇や造園への定植について

- ホワイトアウトは、USDA の耐寒指標はゾーン 3 から 9(最低温度 -40°C)に属する。
- ホワイトアウトは、シカ避けやウサギ避け(野生動物が好んで食餌しない)になる植物。
- しっかりと活着したあとは、ホワイトアウトは乾燥への耐性がとても強くなる。
- 日あたりの良い場所に植えつける。
- 花壇では、草丈が 15 から 20cm、株の直径が 20 から 30cm にまで育つ。
- スペーシング(株間)を 35cm で定植する。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について:EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。